



本ばこ

一新刊教材・図書紹介

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っているとな便利な図書・資料」などを取り上げます。

- ※データ凡例 **1**著者 **2**出版社 **3**刊行年月 **4**ISBN **5**判型・ページ数 **6**定価 **7**その他

ボランティア日本語教師と学習者のためのテキスト

『日本語 おしゃべりのたね』

データ

1西口光一監修、沢田幸子、武田みゆき、福家枝里、三輪香織 共著 **2**スリーエネットワーク (〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 松栄ビル) TEL.03-3292-5751 FAX.03-3292-6195 URL. www.3anet.co.jp/ **3**2006年7月 **4**4-88319-394-2 **5**B5判 130ページ、別冊29ページ **6**1680円 **7**別冊付

地域の日本語教室で教えている日本語教師、そして学習者のみなさんにとって役に立つ一冊が出ました。

学習背景がさまざま、学校のように規則的に学習することが困難な地域の教室では、文法や会話を体系的に教える教科書を一冊選ぶことは難しいでしょう。

この本は、積み上げ式に教えるのではなく、学習者に「おしゃべり」という形で、実際のコミュニケーションを体験させることを目標としています。

学習者からですが、話を深めることによって、中上級者にも使用可能です。

▽テキストの構成

<本文>と<別冊>から成り、本文は20のユニットに分かれています。ユニットの中心はおしゃべりのたねで、ひとつのユニットに三つくらいあります。おしゃべりを進めていくための質問や、表・グラフや、クイズなどが含まれています。

その他に、活動ノート（おしゃべりのまともとしての書き活動）・使える会話（会話例）もユニットに含まれます。

ユニット以外では役に立つ情報・ゲームや、巻末には文法・文型の解説もあります。

別冊は教師のためのページで、活動の目的や手引きが載っています。

この本はモジュール方式できているので、ユニットの順番は状況に合わせて変えることができます。

立っています。

「はじめまして」「いただきまーす」「ちょっと買い物に」「ジェスチャーで伝えよう」「旅行大好き」「ペットと暮らす」「元気ですか」「春は桜、秋はもみじ」「何を食べようかな」「日本の生活 高い？安い？」「みんなのスポーツ」「仕事、がんばります」「わたしの町は日本一」「ケータイ、持った？」「結婚いろいろ」「大変だったね」「祭りだ わっしょい」「楽しく日本語」「女と男 仕事と役割」「ごみを減らそう」

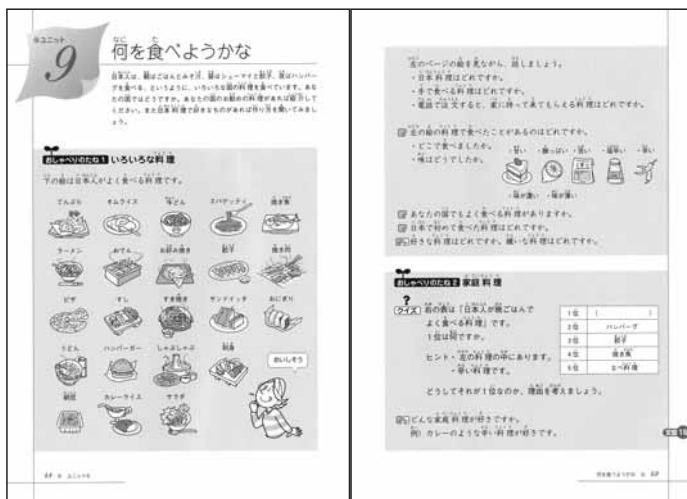
地域ボランティアで日本語を教えている教材選びに困っている方にももちろん、交流活動のリソース、「おしゃべり」のネタを探している方にも役に立つと思います。

▽このテキストの対象者

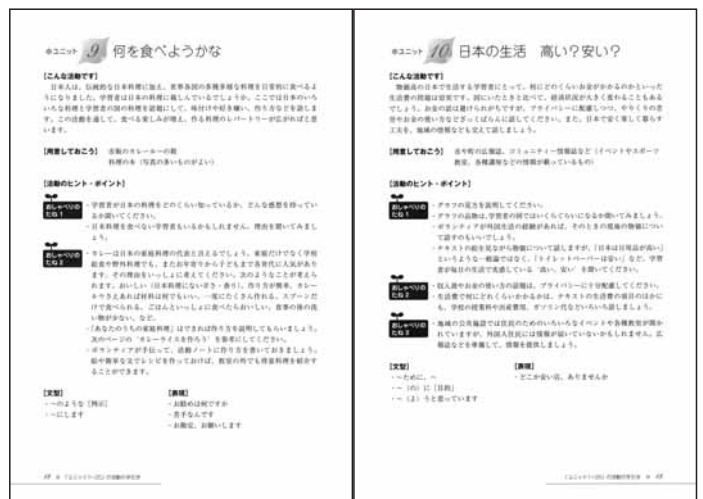
入門期の語彙・文型を学習した初級後半の

▽ユニットの紹介

20のユニットは次のようなテーマで成り



P.48



別冊 P.12-P.13

身近な「レアリア・生教材」を気楽に授業で利用する

『日本語教師必携 すぐに使える「レアリア・生教材」アイデア帖』

データ

- 1 国際交流基金 2 スリーエーネットワーク
- (〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3 松栄ビル) TEL.03-3292-5751 FAX.03-3292-6195 URL. www.3anet.co.jp/ 3 2006年8月
- 4 4-88319-400-0 5 A5判 229ページ
- 6 1890円

この教材は「レアリア・生教材」を利用した教室活動のアイデア集です。食品のパッケージ、チケットの半券、地下鉄の路線図、ファッション雑誌、インターネット上の素材など、さまざまな種類の「レアリア・生教材」を取り上げ、それぞれの素材に合った利用法を紹介しています。

ここで紹介されているアイデアの多くは、国際交流基金日本語国際センターで行われている研修の中で生まれ、使われてきたものです。これから日本語を教える予定の方、日本語を教え始めた方から、日本語教育の経験が豊富な方まで、さまざまな方を対象にしています。「レアリア・生教材」は、「日本の文化、

日本事情を伝えることができる」「教室活動に臨場感や現実との接点をもたせることができる」「日本や日本語への動機付けになる」などの点で有効です。この本では、「レアリア・生教材」を語彙練習や文型練習のためというよりも、上述の三つの有効性を生かすために利用するものと位置付けています。またさらに、それぞれの素材はさまざまな学習段階で利用することができるという考え方に基づいていますので、文型や学習レベル別ではなく、「レアリア・生教材」の種類がそのまま目次となっています。

例えば、6.「雑誌の広告のページ」という章では、「写真を見て内容を想像して話す」活動、「キャッチフレーズから広告の内容を読み取り発表する」活動など、素材の特性を生かした活動が紹介され、各ページでは、活動のステップがわかりやすく紹介されています。活動に

よっては、ワークシート例や会話例などが紹介されています。

巻末には、参考のできる「ウェブサイトの紹介」や「レアリア・生教材」と語彙や文型・表現などとの対照表「利用法一覧」がっています。



P.85



P.86

日本の30年来の変化がすぐわかる

『データでくらべる1970年代の日本と今の日本』

データ

- 1 PHP総合研究所監修 2 PHP研究所
- (〒102-8331 東京都千代田区三番町3番地) TEL.03-3239-6233 FAX. 03-3239-6263
- URL. www.php.co.jp/ 3 2006年7月 4 4-569-68613-3 5 A4判変型上製 79ページ
- 6 2940円

1970年代の日本はどんな国だったでしょうか。30年前と比べると今の日本はどのように変わっていったのでしょうか。日本語の関係者としては知っておきたいところでしょう。

本書では日本政府や官公庁、統計専門会社などから発表された約30年前の統計データと、最近のデータを比較しながら、その時代の日本の姿や社会の動き、日本国民の暮らしの変化などをわかりやすく紹介しています。

本書の構成は次のようになっています。第1章「日本のすがた」、第2章「社会のうごき」、第3章「人々のくらし」、第4章「教育と文化・スポーツ」、第5章「環境と自然」。

次に第3章で取り上げられたテーマを見てみましょう。第3章は1「増える1人暮らし」、2「家計の収入は2倍以上」、3「外食が多くなり、中食という言葉も登場」、4「米食中心から多様化へ」、5「増えつつける子どもの養育費」、6「便利な電化製品がそろった生活」となっています。これらのテーマを通じて、30年前の日本と現在の日本の生活様式、個人の収入、食生活、子どもの養育費などがどのように変わったかをわかりやすく説明しています。

また、本書は日本の小・中学生を対象に書かれているため、各テーマの内容が短く、それぞれ見開き2ページで簡潔にまとめられています。内容も理解しやすいように、データばかり

ではなく、図やイラストが多数使用されています。

授業で日本の30年来の変化などを紹介したいときに、教材としてもそのまま使えてでしょう。

本書には50音順さくいんもついています。



P.46



P.47

言葉遣いを豊かにするために楽しむ辞典

『知っておきたい 日本語コロケーション辞典』

データ

1 金田一秀穂 監修 2 学研 (〒146-8502 東京都大田区仲池上1-17-15) TEL.03-3726-8124 FAX.03-3726-8122 URL.www.gakken.co.jp/ 3 2006年6月 4 4-05-302130-8 5 A5判 400ページ 6 2310円

「頭が切れる」「味を占める」「足を引っ張る」「腹を立てる」など、日本語には、二つ以上の言葉が結びついてきたことば(=コロケーション)がたくさんあります。一つ一つの言葉の意味はわかるけど、全体の意味がよくわからない、意味は何となくわかるけど、使い方がよくわからない、この表現とこの表現、よく似ているけど、どう違うんだろう。みなさんは、そんな悩みを持ったことはないでしょうか。

本書は、使用頻度が比較的高く、手紙やブログ、メールなどを書くときにも役立つ「知っておきたい」コロケーションを、慣用表現も含めて約4000、集めた辞典です。

コロケーションの先頭に来ることば(=キーワード)が五十音順に並べられていて、とても引きやすくまとめられています。「意味と使い方」の欄には、「用例」や「参考知識」「類義語」「対義語」などが示されています。誤って使われやすいコロケーションについては、「誤用例」が示されており、役に立ちます。巻末にはコロケーションの後半部分を見出し語とした逆引き索引もついていて、使いやすくなっています。また、コラムの欄には、株式用語やパソコン用語、スポーツ用語が分野別コロケーションとしてまとめられています。

監修者は「まえがき」で「コロケーションは、私たちが暮らしている文化を表しているのである。文化の中の感じ方、考え方が、こうしたコロケーションの中に

表現されている」と述べています。みなさんの国の言葉の使い方と比べながら、本書を楽しみながら読んでみてください。ことばと文化の関係について、きっと新しい発見があるでしょう。



P.5



P.6

具体的な場面を想定して一步一步練習する

『初級が終わったら始めよう にほんご敬語トレーニング』

データ

1 金子広幸 2 アスク (〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6) TEL.03-3267-6864 FAX.03-3267-6867 URL. www.ask-digital.co.jp/ 3 2006年5月 4 4-87217-612-X 5 B5判 176ページ 6 1890円 7 CD1枚付

敬語をひと通り勉強したのに使えない、敬語が難しいと思う人たちは多いと思います。本書はこのような人のための教材です。全体は3章に分かれ、1章「敬語への入り口」では、場面に応じてさまざまな文のスタイルがあることを簡単に学びます。2章「テーマ別敬語トレーニング」ではテーマ/場面に応じた敬語表現を練習し、3章「だんだん敬語をとる」では、場面に応じたスタイルの選び方を学びます。本書の特徴は、2章にみるように、具体的な場面を想定して、基本的な形の練習から実際に近いロールプレイまで、順を追って敬語の練習ができることです。

本書の中心である2章は18課に分かれ、取り上げられているテーマには、「誘う」「お願い

する」「おわびをする」のような一般的な言語機能に結びつくもの、「訪問する」「予約を受ける」「面接試験を受ける」のような具体的な場面に密着したものなど、社会生活上必要なさまざまなテーマがあります。

2章の課の構成を5課「お願いする」を例にとってみましょう。まず、「できますか」で、外国人が日本人に何かを頼もうとする具体的な場面で誤った表現を含む会話を提示します。次に、「敬語で言ってみましょう」で、先の会話の場面に適切な表現を解説し、例文を示します。続く「練習しましょう」では、CDを聞きながら文型や表現のドリルをします。「これでOK!」では、「できますか」の会話中の誤った表現を適切に直した会話をCDで聞きます。「チェックしましょう」で、この課で覚えた表現の確認をし、「どんどん覚えましょう」で

さらにドリルをします。最後に「やってみましょう」でロールプレイをしてみます。

このように、さまざまな練習を通して、敬語の使い方を身につけられるように作られています。また、各課に英語、韓国語、中国語訳付の単語リストがあります。



P.50



P.51

P.11~13は国際交流基金の以下の日本語専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

生田 守、久保田美子、王 崇梁、木谷直之、向井園子 (執筆順)